



# 校長室だより 30号

中 島 悟

## 【キャッチフレーズ】

未来に残そう 伝え築いた 振徳商業  
目指せ 三種目 日本一 !

【来週の行事】 11月13日(土) 秘書検定

14日(日) 珠算・電卓検定、振徳商マート(油津夢見橋周辺)

15日(月) 古典芸能(狂言)鑑賞会

～ 公開授業週間、日商・県商簿記課外

1 「あの頃がなつかしい」 旧職員 長嶺 哲哉 10周年記念誌より抜粋

2 出逢ったいい話 『倒産から立ち直った男』 『致知』Vol.16より抜粋

「あの頃がなつかしい」(原文)

旧職員 長嶺 哲哉

創立10年目を迎え、県下は勿論、今では九州全国とその名を知られるようになった。開校当時を振り返ってみると、校舎は荒地の中にポツンと立っているだけ、授業するには設備も用具もなくグラウンドも一雨降ると1週間近く使用出来ず、それこそ明けても暮れてもチューブのものも挙げ、鉄アレ、腹筋台、縄とび、体操等で体力づくりのトレーニングの連続であった。当時の生徒は心抱強かったと思っている。

第1回の入学式の時、新しい校舎のペンキの臭いと、立ちづくめのせいか10数名の生徒が気分を悪くしたり、倒れたりして、式が一時ざわめいたこともあった。又、県民に本校を知っていたとこうと、都城での県民体育大会の入場式に、遠足を兼ねて参加しようとそれこそ1週間近く放課後筒井校長先生以下180名余りで行進の練習をしたところ、前日になって雨のため中止になり、当日になって急に入場行進を実施するということになり陸上部の生徒6名と私が参加して恥しい思いをしたことだった。

又、第1回の運動会を季節はずれの11月におこない、ガタガタ震える中で演技をし、おりからの強い風でグラウンドは砂ぼこりで、1米先が見えず、テントの支柱は折れるやらで午後の部が途中から中止となった。

今、振り返ってみるとその当時は職員と生徒が希望に燃え「俺たちで学校を創るのだ」とクワやカマを手にして学校建設のために頑張ったものだった。グラウンド整地作業でブルトーザに乗せてもらって作業をしたこと、芝生を大きな桶の中でほぐして、1本1本グラウンドに植えつけていったこと、土手の上に立ってグラウンドを見おろすと今ではなつかしいものばかり、こうした過去の思い出を生徒たちに言い伝えてきて10年近く、今一度あの頃の気持に返って、仕事にとりくみたいと願っているものの1人である。

## 出逢ったいい話 『倒産から立ち直った男』

今回は、苦境に陥った経営者の相談にボランティアで30年以上にわたって  
応じてきた 八起会会長 ・ 野口誠一さんから伺ったお話をご紹介します。

Uさんは昭和42年、東京練馬に段ボールメーカーを設立しました。幼い頃、馬小屋での生活を余儀なくされるほどの赤貧の生い立ちをバネに、物づくりに徹する職人気質と、現金取引を貫く堅実な経営で、20坪の工場でスタートした会社は、4年で最新設備を備えた150坪の工場を抱えるまでに成長しました。

ところが、48年のオイルショックを契機に、材料費の暴騰、大手資本の参入で苦境に陥り、55年には最大の納入先が倒産。その会社の2,000万円の手形を割り引かずに抱え込んでいたため、連鎖倒産に巻き込まれました。

それまで誠実につき合ってきた仕入れ先は、にわかに態度を変え、トラックで自宅へ押しかけ換金できそうなものを根こそぎ持ち去りました。その中には、小学校に入ったばかりの娘に、やっとの思いで買ってやったピアノがありました。その仕入れ先は、ピアノにすがりついて泣きじゃくる娘を突き飛ばし、強引に持ち去ったと言います。

絶望の底に沈んだUさんは、深夜車を飛ばして、とある私鉄の踏切でエンジンを切りました。やがて始発の電車が自分を楽にしてくれるだろうと思いつつ、この数日の不眠と疲労から、たちまち深い眠りに落ちていきました。

しかし、そこで見た夢に、自分を一所懸命に育ててくれた母の顔、ピアノを持ち去られて泣きじゃくる娘の顔が浮かんでハッと目が覚めました。「母と家族を残して死ぬわけにはいかない」そう思って車を動かした直後、さっきまで車を止めていた踏切を、始発電車が轟然と通り過ぎていきました。

さっきまでの自分はあの踏切で死んだのだ。これから死にものぐるいで働いて、母に楽をさせ、娘にもう一度ピアノを買ってやる。

こう決意したUさんは、4畳半1間に一家4人で転がり込み、48歳で再出発。駅の掲示板で見かけたシーリング作業員の募集先を、経験なし、年齢制限オーバーにもかかわらず、熱意で口説き落として日給6,000円の見習いとして採用してもらいました。

彼は毎朝6時から会社に入り、夜は9時、10時まで働き、3年で社内きつての腕利きとなり、若い技術者が数名彼の下につくまでになりました。

平成元年、Uさんはシーリング加工の新会社を設立。バブル崩壊後も会社は順風満帆です。